



宮ヶ瀬湖から、 風のたより

NPO法人
宮ヶ瀬湖ボートクラブ

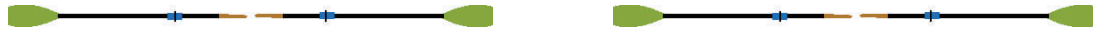
第2巻第2号

2008年8月16日

宮ヶ瀬湖ボートクラブ会員の皆様！ 北京オリンピックも終わり、残念ながらボートはメダルに届かず、課題が残りました。しかし、宮ヶ瀬湖では、遅々とした歩みではありますが、“宮ヶ瀬湖でボートが漕げる”と聞いた人たちが、一人また一人と宮ヶ瀬湖を訪れ、ボートを漕いで帰られます。毎週週末の“漕ぐ会”は、“漫漕スタイル”が定着。宮ヶ瀬湖の景観と碧水を楽しんでいます。着実にボート宮ヶ瀬湖の世界ができて参りました。これはまさに会員の皆様のお陰、また国交省ダム事務所、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団のご理解とご支援の賜と感謝しています。

さて、宮ヶ瀬湖では、夏のシーズンを終え、いよいよメインイベント紅葉レガッタに向けて準備に入りました。その節目にあたり、“風の便り”をお届け致します。

第6回宮ヶ瀬湖紅葉レガッタは平成20年11月23日(日)です。ふるってご参加下さい。



1. 春風と山桜、友として(第6回宮ヶ瀬湖観桜遊漕会)4月20日(日)

これまでの「観桜レガッタ」を「観桜遊漕会」と名称変更しての開催。新しいスローガンは、「一艇ありて夢ひとつ」(One boat, one dream)。山桜、山吹、そして碧水。競うよりもまずはこの自然環境を満喫してもらおうというプログラムです。最初に正面水域で2艇の「並べ」レース500m、つづいて広大な中央湖面に漕ぎだして漫漕を楽しんでもらいました。参加ク

ルーは、エイト、クオド、ナックルの合計7艇。親子クルーや大学ボート部OBクルーありの多彩な面々。春特有の風も自然のひとつ。伴走モーターに見守られ往復10km漕ぎ進むクルーもあれば、桜見物で引き返すクルーもありました。夢は今もめぐりて、忘れがたき宮ヶ瀬湖。みなさん、レガッタとは違う感動を味わったようです。



山肌のあちこちに桜..



2. 桜は日本だけのものじゃない、と知ったFISAローイングツアー(ドイツ)

ゴールデンウィークの最中、FISAおよびドイツボート協会主催の遠漕イベントに宮ヶ瀬湖BCから三原が参加。ザール川からモーゼル川を約180km漕ぎ下りました。一昨年、スイスで行われた際には立花さんと2名で参加していたので、要領、雰囲気は承知済みで、気楽に参加できました。現地の気候は、

日本より2、3週間ほど遅い(ちょっと寒い程度)感じでしたが、あちこちの家の庭や山肌に各種の桜を発見。たくまずしてドイツで「観桜遊漕会」を楽しんできました。詳細は、宮ヶ瀬湖BCのホームページに掲載してもらいましたので、詳細はそちらをご参照ください。(三原)



出発点付近のザール川の蛇行



3. 前向きに漕げよ、ドラゴン(横浜ドラゴンボートレース)6月1日(日)

今年で連続4回目の出場。宮ヶ瀬湖の名を県下に知らしめんと願ってのレース参加です。この大会をきっかけに漕友の輪が広がり、去年は20人乗りドラゴン2艇を出しましたが、今年は1艇に絞っての参加。今年も旧交をあたため、新しい出会いもあり、愉快な一日となりました。山下公園前の港を260m直進するだけですが、

とにかく舵取りがむずかしい。今回2回のレースは、直進快漕とスラローム迷漕。百万円の賞金にはほど遠い。しかし、中華街での打ち上げは、おかげで話題沸騰。「龍船に集う人皆輝けり」。来年は、開港150周年記念大会。夢ひとつに向かって、加油、加油！



第1レース圧勝の宮ヶ瀬湖BC



4. 合宿は楽しからずや、「恵那峡合宿」(6月7日～8日)

学生時代の合宿を「楽しかった」と思い出す人は、まずいない(と思う)。しかし、宮ヶ瀬湖BCの合宿は、はっきり言ってそれが来るのが待ち遠しい。年2回やりましょう、という声もあるほどだ。イベント疲れの恐れもあり、「待ち遠しい」と思われる年に1回の行事にしている。そのキーワードは、景観に優れたコースでのローイング、その後の夕食会での団欒、そして温泉だ。今年は、これに適う地と



して木曾川の上流部、恵那峡で合宿をはった。高校ボート部ではレベルの高い恵那高校のホームグラウンドだ。その顧問の西尾先生にお願いして恵那高校の艇とオールをお借りすることができた。奇岩、碧水の恵那峡は、期待たがわず素晴らしかった。改めてこの場を借りて西尾先生、恵那高校に感謝申し上げたい。次回が待ち遠しい。



5. 湖の日、運動会(第5回宮ヶ瀬湖水上運動会)7月21日(月・海の日)



虹の大橋を背に全艇せいぞろい

日本のボート界でも珍しいリレーと湖上漫漕の2部からなる運動会。競漕ばかりがボートの楽しみではありません。参加クルーは、エイト3艇、クオッド2艇、ナックル1艇。艇種がそろわず技量もばらばらですが、遊び心あふれるリレーとなりました。終了後、記念撮影をして、そろって中央湖面に。これだけの競技用ボートが

湖面に浮かぶのはめずらしい。薄曇りと微風に助けられ、宮ヶ瀬湖縦断漫漕。伴走艇から写真撮影。本大会の最大のプレゼントは、湖岸景観とこの写真。そして納艇後の「冷やしお汁粉」。今回は、清川村広報誌と地元ミニコミ誌の取材記者が伴走艇に乗り取材していきました。



6. 「良い会」水郷シリーズ「潮来遠漕」7月26日(土)～27日(日)

昭和41年卒大学ボート部OB会(会長大隅多一郎氏は本会会員です)主催のプレジャー・ローイングに参加したのは、岸田、立花。潮来市立ボートセンターを拠点として、初日鹿島神宮橋までの往復20km、二日目は常陸利根川から小見川閘門(ロック)を抜けて利根川本流に出て、横利根川、霞ヶ浦、と回る39kmコース。ナックル新艇4艇に分乗しての遠漕。伴走モーターはもちろん陸上支援隊の活動が素晴らしい。緻密な計画と用意周到さには感服するばかり。両日



閘門を通過



とも気温26度で薄曇りという絶好の条件で、総勢30人無事帰着。46年ぶりに再会した坂東太郎。「豁然として開けゆく大利根の天地三千里、歌詞に尽くせぬ感激を、オールの響き、君よ聞け」。これが母校の「銚子遠漕歌」の一部。全ての道は、ローイングに通ず。ボートを続けていてよかったですと感じました。(立花)



坂東太郎を行く・・・



7. 宮ヶ瀬湖合宿、続々と!

今夏は合宿参加するクルーが続いています。まずは7月12日、13日の稲門ミドル・ローイング18名。エイト2艇を並べての緊迫した贅沢な漕艇練習。伴走艇からはセミプロの写真撮影。「宮ヶ瀬の素晴らしさに触れ、蝶のように水面を走れたことが最高の財産になりました。既に稲門ミドルでは毎年宮ヶ瀬湖で合宿を行うことも決定しました」とは嬉しいお礼メールです。続いてこれまた早稲田OBクルー。理工学部ボートOBの碧水会

9名。7月20日に合宿し、翌日の水上運動会に華を添えてくれました。30年ぶりにエイトを漕いだ喜びにあふれるお礼メールを頂戴しました。猛暑にめげず2泊する三菱BC9名は、8月14日から16日まで。リトアニアの世界マスターズを目指しての集中練習。平均年齢72歳(長老は76歳)でH組レースに参加予定。湖面独り占めの漕艇です。宿泊は、湖畔旅館の「みはる」や飯山温泉。去年まで利用できた「玉肌の湯」は閉鎖されました。

お問合せは

鶴野省三(宮ヶ瀬湖ボートクラブ副会長)宛 電話: 046-884-3571/FAX 046-836-6785 e-mail: s_tsuruno@ybb.ne.jp